

協議会の活動

活動紹介

平成31年2月17日に「新しい東北」交流会を開催しました。

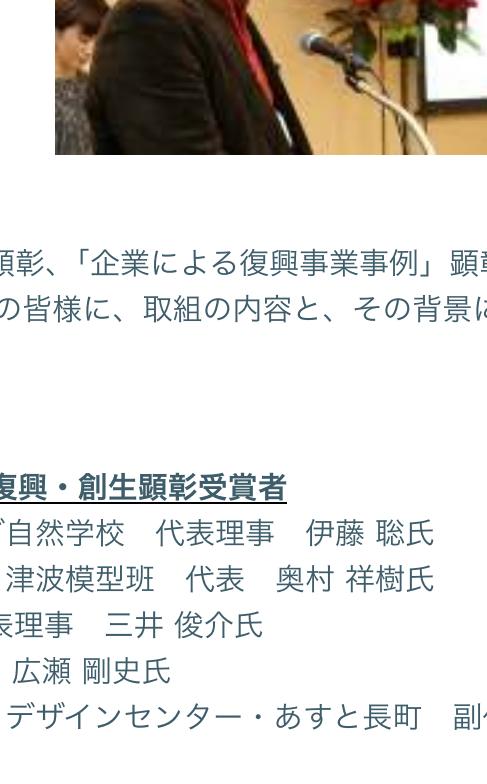
「新しい東北」官民連携推進協議会では、会員同士の交流・連携促進や、一般の方々に向けた東日本大震災から復興に関する情報発信を目的として、「新しい東北」交流会を開催しています。平成30年度の「新しい東北」交流会では、「東北の今を知ろう」と題して、復興・創生に向けた取組や、東北の今を知ることができる会場を、テーマ別に設け、関連するイベントを多数行いました。

「開催要項はこれら」

■ メイン会場(TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口)

■開会挨拶

開会にあたり、渡辺道復興大臣より、今回の交流会の開催趣旨について、「大震災からもうすぐ丸9年を迎え、産業・生産の再生やコミュニティ形成が重要です。本次交流会が復興から創生に向けた連携や取組が生まれるきっかけの場となることを祈念します。」との挨拶を行いました。



■「新しい東北」復興・創生顕彰 謝影式

「新しい東北」復興・創生顕彰は、「新しい東北」の創造に向けた取組について、大きな貢献をされている方を顕彰しています。平成30年10月1日~30日にかけて公募を行い、合計132件から、10件を選定しました。

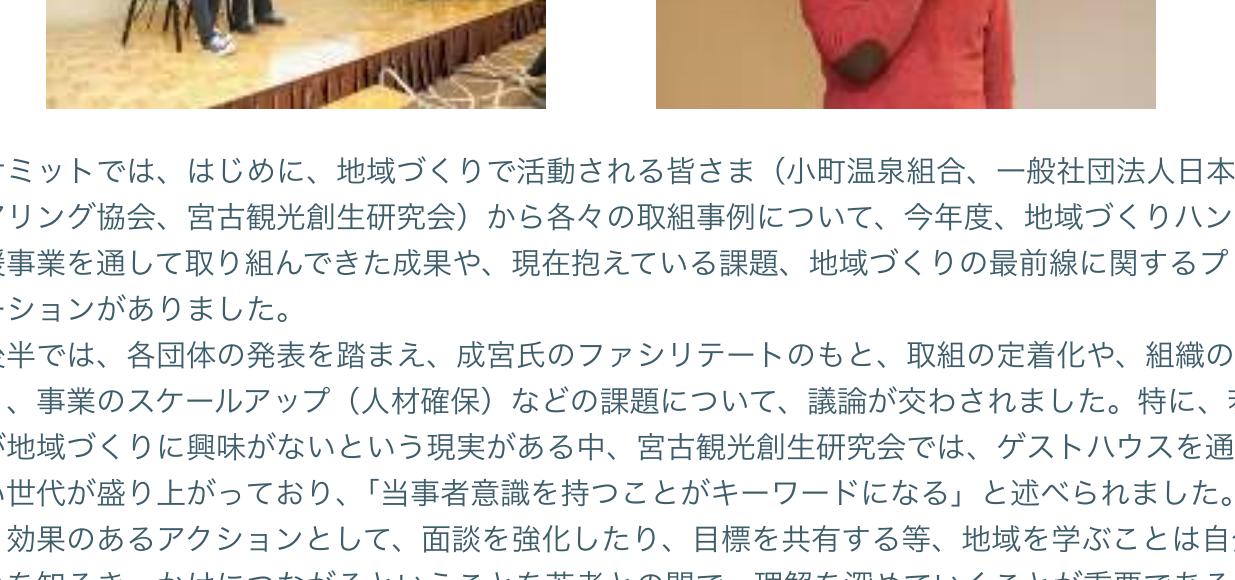
顕彰式では、受賞者の皆様に、渡辺復興大臣より顕彰状の授与を行いました。



■「企業による復興事業事例」顕彰式

「企業による復興事業事例」顕彰では、震災後に売上等を回復させている企業の事例、震災前後に新規創業、または新規事業を開拓した企業の事例などを集め、特に産業復興のモデルとなることが期待される事例を顕彰しています。平成30年度は事業者を選定しています。

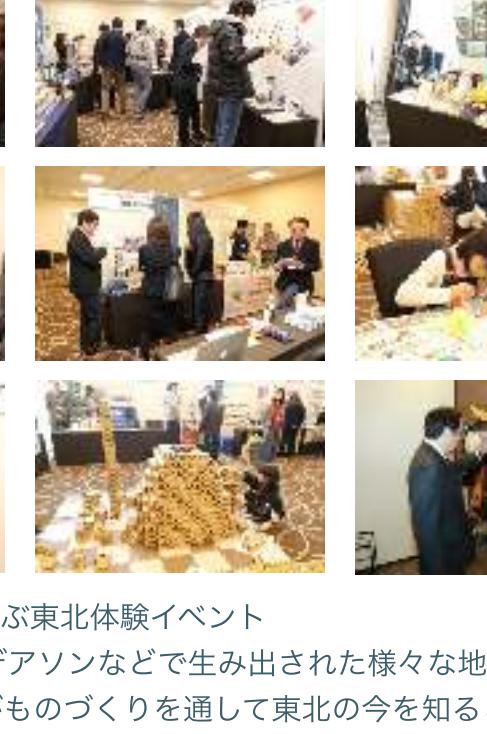
顕彰式では、受賞者の皆様に、渡辺復興大臣より顕彰状の授与を行いました。



<TOPIX>ステージを飾る花—福島県川俣町のアンスリウム

式典開始に先立ち、ステージを飾る花を飾って頂きました、福島県川俣町のポリエチレン媒地活用推進組合の富永様より、ご挨拶を頂きました。

「古着などをリサイクルして作られた、ポリエチレン媒地を活用し、土を使わずに、土壤汚染とは無縁で風評の影響を受けにくい生産方法を確立しました」と述べられ、復興・創生の好事例として、ご紹介頂きました。



■活動紹介

「新しい東北」復興・創生顕彰、「企業による復興事業事例」顕彰の受賞者や「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2018受賞者の皆様に、取組の内容と、その背景にある思いについて発表していただきました。

【プレゼンター】

平成30年度「新しい東北」復興・創生顕彰受賞者

一般社団法人三陸ひづなぎ自然学校 代表理事 伊藤聰氏
岩手県立宮古工業高等学校 津波模型班 代表 奥村祥樹氏
特定非営利活動法人SET 代表理事 三井後介氏
一般社団法人ReRoots代表 広瀬剛史氏
特定非営利活動法人つながりデザインセンター あすと長町 副代表理事 東北工業大学・准教授 新井信幸氏
特定非営利活動法人TEDIC 代表理事 門馬優氏
南三陸ホタル親洋 第一常務社長 伊藤俊氏
一般社団法人ふくしま達瀬ワイヤー 代表理事 森山潤三氏
特定非営利活動法人ビーンズふくしま 代表 川村博氏
特定非営利活動法人ビーンズふくしま 事務局長 中林博之氏

【企業による復興事業事例】顕彰受賞者

重茂漁業協同組合 代表理事兼会長 山崎義広氏
ミネックス株式会社 常務取締役 葛西信綱氏
宮城県漁業协同組合 藤津川支所 戸倉キヤ部会 部会長 後藤清広氏
農事組合法人 いわき庭園椎葉組合 代表理事 渡部明雄氏
林精器製作株式会社 代表取締役社長 林明博氏

【「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2018受賞者】

KUMIKI PROJECT株式会社 代表取締役 桑原豪貴氏
広田湾遊船組合 事務局長 銀治川直広氏
一般社団法人手づくりマルシェ 代表理事 斎藤幸子氏
古河電池株式会社 小出彩乃氏



■パネルディスカッション「地域づくりサミット」

パネルディスカッションとして、「地域づくりサミット～地域づくりのプレー」と考える東北の「今」と「これから」～を開催しました。パネラーは復興庁「地域づくりハンズオン支援事業」の支援団体のみなさまが登壇されました。

「地域づくりハンズオン支援事業」は、被災地における課題の解決に取り組む支援団体と、専門家、復興庁が互いに協力しながら取組を進める事業です。本サミットでは、東日本大震災の被災地で、地域づくりに取り組むみなさまをお迎えし、東北の地域づくりの「今」をご報告いたたくとともに、「これから」の課題や展望について、意見が交わされました。



■サミットでは、はじめに、地域づくりで活動される皆さま（小町温泉組合・一般社団法人日本カーシェアリング協会・宮古観光創生研究会）から各々の取組事例について、今年度、地域づくりハンズオン支援事業を通して取り組んできた成果や、現在抱えている課題、地域づくりの最前線に関するプレゼンテーションがありました。

後半では、各団体の発表を踏まえ、宮城氏のファシリテーターのもと、取組の定着化や、組織の基盤づくり、事業のスケールアップ（人材確保）などの課題について、議論が交わされました。特に、若い世代が地域づくりに興味がないという現状がある中、宮古観光創生研究会では、ゲストハウスを通して、若い世代が盛り上がり去り、「当事者意識を持つことがキーワードになる」と述べられました。また、効果のあるアプローチとして、面接を強化したり、目標を共有する等、地域を学ぶことは自分が何者かを知るきっかけにつながるということを若者との間で、理解を深めていくことが重要である、と挙げられました。

最後に、地域づくりを支える人材をいかに確保していくか、という課題では、働く側にとっての安定的な基盤、くわくわ感、受け入れのあたたかさなどが重要な要素になってくることや、発起人たちの思いを理解してもらえるよう次の世代に伝えていくことが大切だと結ばれました。



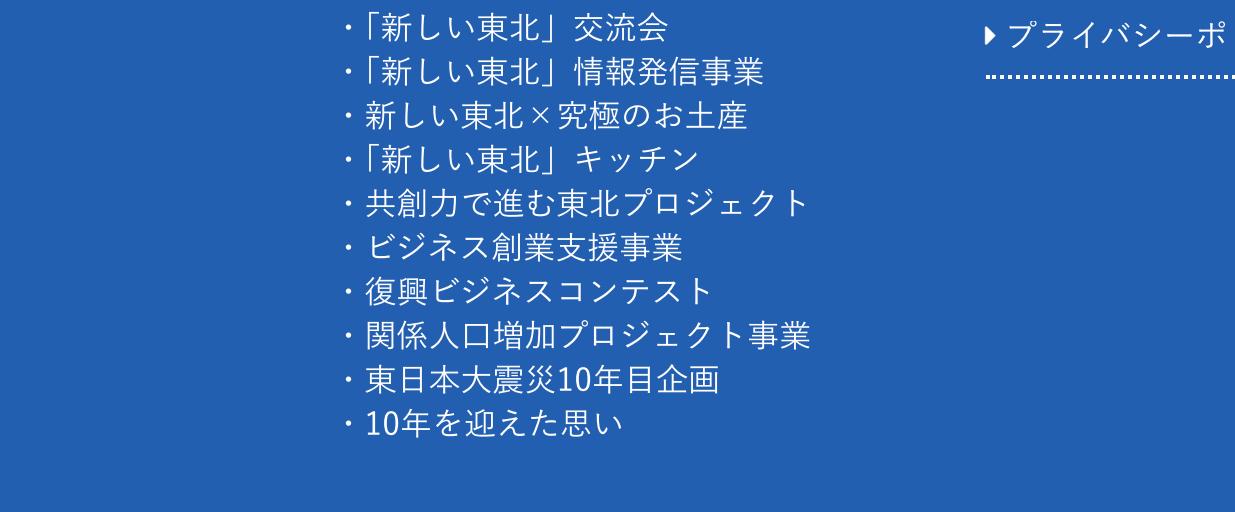
■ブース展示・ワークショップ

顕彰やビジネスコンテスト受賞団体、Fw:東北Weeklyなどに連携した多数の団体による、ブース展示やワークショップを実施しました。お子様から大人まで楽しめるコンテンツがたくさんお披露目されました。



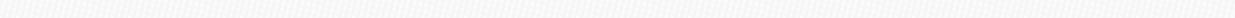
■地域づくりハンズオン支援事業（共創イベント型）交流イベント

地域づくりハンズオン支援事業（共創イベント型）に採択されている福島県浪江町発祥の大堀相馬焼、宮城県石巻市との移動支援Reraが、それぞれの取組を参加者と交流しながら発表しました。



■「なりわいをむすぶ」交流イベント 親子で楽しめるワークショップ①

親子でも楽しめる「なりわい」の交流をテーマに、会津若松観光ビューローの赤べこ絵付けや、川俣町のアンスリウムによるフラワーアレンジメントといった体験型ワークショップを実施しました。



■被災地を盛り上げるクラウドファンディング

クラウドファンディングによって得られるものや苦労したところなどをテーマに、復興庁クラウドファンディング支援事業により資金調達を成功した事業者に成功の秘訣などを語っていただきました。

■高校のない小さな町を「人生の学校」に変えていく

～ローカルでの新しい学びのカタチ・国際化イニシアチブの取組～
福島県郡山市、高校のない小さな町を県内外から訪れた人の学びの場とするための挑戦について、町を訪れている若者の声を交えて紹介をいただきました。

■「今」を味わう復興物産展（JR仙台駅西口2Fコンコース）

JR仙台駅会場では、「今」を味わう復興物産として、復興庁が支援している企業や復興中の取組にご協力いただいている企業などの成果物などの紹介、販売を行いました。日曜日ということもあり、たくさんの方々でございました。

■「復興へ「今」までの歩み写真展（AER 2Fアトリウム）

JR仙台駅会場からメイン会場に向かう途中にある商業施設AERでは、「復興へ「今」までの歩み写真展」と題した復興庁主催の写真展を開催しました。震災から復興までの歩みを時系列で展示了した「復興への歩み」、住民のみなさまから寄せられた被災地の何気ない一枚をまとめた「故郷を照らす希望の光」、復興庁が支援する事業や団体の紹介のほか、宮古観光創生研究会では、ゲストハウスを通して、若い世代が盛り上がり去り、「当事者意識を持つことがキーワードになる」と述べられました。また、効果のあるアプローチとして、面接を強化したり、目標を共有する等、地域を学ぶことは自分が何者かを知るきっかけにつながるということを若者との間で、理解を深めていくことが重要である、と挙げられました。

■「なりわいをむすぶ」交流イベント 親子で楽しめるワークショップ②

横浜本店の塗り刷毛研ぎ出しや、土湯温泉こしき工房によるこしき絵付けや、ロッソによる健康体操、ササギプラスチックによる人形作りの体験型ワークショップを開催し、親子連れでございました。

■Fw:東北Weekly 子供も喜ぶ東北体験イベント

Fw:東北Weeklyでのアイデアソンなどで生まれ出された様々な地域資源の活用の仕方をワークショップとして開催。子どもたちがものづくりを通して東北の今を知ることができます。

■地域づくりハンズオン支援事業（共創イベント型）交流イベント

地域づくりハンズオン支援事業（共創イベント型）に採択されている福島県浪江町発祥の大堀相馬焼、宮城県石巻市の移動支援Reraが、それぞれの取組を参加者と交流しながら発表しました。

■「なりわいをむすぶ」交流イベント 親子で楽しめるワークショップ③

横浜本店の塗り刷毛研ぎ出しや、土湯温泉こしき工房によるこしき絵付けや、ロッソによる健康体操、ササギプラスチックによる人形作りの体験型ワークショップを開催し、親子連れでございました。

■「今」を味わう復興物産展（JR仙台駅西口2Fコンコース）

JR仙台駅会場では、「今」を味わう復興物産として、復興庁が支援している企業や復興中の取組にご協力いただいている企業などの成果物などの紹介、販売を行いました。日曜日ということもあり、たくさんの方々でございました。

■「復興へ「今」までの歩み写真展（AER 2Fアトリウム）

JR仙台駅からメイン会場に向かう途中にある商業施設AERでは、「復興へ「今」までの歩み写真展」と題した復興庁主催の写真展を開催しました。震災から復興までの歩みを時系列で展示了した「復興への歩み」、住民のみなさまから寄せられた被災地の何気ない一枚をまとめた「故郷を照らす希望の光」、復興庁が支援する事業や団体の紹介のほか、宮古観光創生研究会では、ゲストハウスを通して、若い世代が盛り上がり去り、「当事者意識を持つことがキーワードになる」と述べられました。また、効果のあるアプローチとして、面接を強化したり、目標を共有する等、地域を学ぶことは自分が何者かを知るきっかけにつながるということを若者との間で、理解を深めていくことが重要である、と挙げられました。

■横断幕

東日本大震災から復興にボランティアやNPOとして携わった方々に、今後伝えべき知見等を議論いただき、多様な主体間で情報共有の上、連携することが重要であることが共有されました。

■ボランティア交流会

東日本大震災から復興にボランティアやNPOとして携わった方々に、今後伝えべき知見等を議論いただき、多様な主体間で情報共有の上、連携することが重要であることが共有されました。

■被災地を盛り上げるクラウドファンディング

クラウドファンディングによって得られるものや苦労したところなどをテーマに、復興庁クラウドファンディング支援事業により資金調達を成功した事業者に成功の秘訣などを語っていただきました。

■高校のない小さな町を「人生の学校」に変えていく

～ローカルでの新しい学びのカタチ・国際化イニシアチブの取組～
福島県郡山市、高校のない小さな町を県内外から訪れた人の学びの場とするための挑戦について、町を訪れている若者の声を交えて紹介をいただきました。

■「今」を味わう復興物産展（JR仙台駅西口2Fコンコース）

JR仙台駅会場では、「今」を味わう復興物産として、復興庁が支援している企業や復興中の取組にご協力いただいている企業などの成果物などの紹介、販売を行いました。日曜日ということもあり、たくさんの方々でございました。

■「復興へ「今」までの歩み写真展（AER 2Fアトリウム）

JR仙台駅からメイン会場に向かう途中にある商業施設AERでは、「復興へ「今」までの歩み写真展」と題した復興庁主催の写真展を開催しました。震災から復興までの歩みを時系列で展示了した「復興への歩み」、住民のみなさまから寄せられた被災地の何気ない一枚をまとめた「故郷を照らす希望の光」、復興庁が支援する事業や団体の紹介のほか、宮古観光創生研究会では、ゲストハウスを通して、若い世代が盛り上がり去り、「当事者意識を持つことがキーワードになる」と述べられました。また、効果のあるアプローチとして、面接を強化したり、目標を共有する等、地域を学ぶことは自分が何者かを知るきっかけにつながるということを若者との間で、理解を深めていくことが重要である、と挙げられました。

資料

「新しい東北」交流会 開催報告

協議会の活動